

NPOワンポイントアドバイス!

～催しを時間内に終わらせるためのポイント～

講演会や研修会等は、ついつい予定終了時間をオーバーしてしまいがちです。

そこで今号では、講演会や研修等を予定時間内に終わらせるための主催者側のコツをお伝えします。

1. 講演者へ依頼の時点で、要点を明確にしておく

ただ「〇分をお願いします」ではなく、必ず話してほしいトピックや順番、催し全体の進行や内容も伝え、時間厳守の理由も含め明確にしておく、講演者も準備がしやすく心構えも違ってきます。

2. タイムキープは対応しやすく伝える

タイムキーパーを必ず置きましょう。演者終了予定時間直前から表示を出す(例:「残り3分」「あと1分」など)のではなく、早い段階から表示する方が効果的です。(例:「全体の1/2が過ぎました、残り30分です」など)

3. 全体調整をする人をおく

全大会と分科会に分かれる等、複数の部屋を使用する場合、全体の最新状況を把握している調整役を置き、各部屋に緊急メモなどを渡したりしながら全体の調整を図りましょう。

4. 「盛り上がっているから・・・」と傍観しない

いくら盛り上がっていても、参加者の中には当初予定時間までしか居られない方もいます。延長したい場合は、予定時間でいったん締めて「希望者のみ〇分延長します」といった対応をしましょう。

5. 余裕をもった進行表とすみやかな進行を

多少の時間は調整できる余地をのこした進行表をつくっておくと同時に、事務連絡は前方のスクリーンに示すなど、効率的に進行できる準備をしておきましょう。

6. 会場や機材は事前に確認

会場や機材の設置に手間取ることのないよう、事前に確認しておきましょう。

7. 懇親会もタイムキープ!

終了後、会場内でゲストや参加者による立ち話の輪ができたり、後片付け等に時間がかかると懇親会の開始時間が遅れてしまい、参加をあきらめなくてはならない人も出てきます。懇親会も含めたタイムキープを心がけましょう。

参考:『NPOマネジメント 72号』IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]発行



センター長のつぶやき

まちづくりセンター センター長 丸藤 競

先日、Jリーグの村井満チエアマンからお聞きした話です。

2005年にJリーグに入団した選手120名のうち、その後10年(500試合)で何試合に出場したかを調べると、1試合もピッチに立てず引退した選手が21名と最も多かったそうです。同時にサッカーはとても理不尽なスポーツだと言います。足を使うためミス連続ですし、怪我の率も高く選手生命を絶たれることもあります。実力があってもチームメイトとの関係性で力が発揮できなかったり、監督の構想から外れると試合に出してもらえません。とても厳しく、心がボキボキ折れ続ける

世界です。

そのような中、05年組で日本代表になった本田圭佑や岡崎慎司、西川周作はどこが違ったのかを、50項目以上にわたり調べ分析したそうです。実は、彼らは基礎体力や技術ではむしろ劣っていたし、負けず嫌い度もプロとしては当然のレベル程度でした。心技体が図抜けていたわけではなかったのです。

ではどこが違ったのか。実は、「傾聴力」と「主張力」そして「自己啓発力」が極めて秀でていたそうです。成長するためにどうすればいいのかを人に聞いて、自分の中に落とし込むことができ、なおかつ、ただ言われた通りにやるのではなく「私はこうしたい」と主張できる。村井さんはこれを「リバウンドメンタリティー」と表現し、サッカーに限らず社会で活躍している人が持つ共通の能力だと紹介してくださいました。

とても分かりやすく、やる気にもさせてくれた村井チエアマンに、感謝感激したひと時でした。